

## 世界災害看護学会・WHO の災害看護フォーラムで共同座長をしました (2024/11/29)

テーマ：Advancing Health and Resilience for Emergencies and Disasters: Interdisciplinary Collaboration Towards 2030 and Beyond

会場：JICA 関西 HAT Kobe

2024年 11 月 29 日に JICA 関西において、世界災害看護学会と WHO 研究・開発センター（WHO 神戸センター）が共催する災害看護フォーラムで、災害医学研究部門の江川新一教授が共同座長として登壇しました。世界災害看護学会は第 8 回を迎え神戸で 11 月 30 日、12 月 1 日の両日開催されましたが、このフォーラムはプレイベントとして開催され、各国から約 200 名が参加しました。WHO からこのフォーラムの意義について、災害対応の中心的な役割を果たす看護師として世界の災害対応と事前防災の重要性、災害による健康被害の低減をはかるために仙台防災枠組に基づいて WHO が災害・健康危機管理枠組を策定したこと、その枠組にもとづいた研究ネットワークを中心に学際的に研究・実践を進めていくことの重要性が紹介されました。

多彩かつ学際的に、プラネタリーヘルス（全地球的な社会のレジリエンス）、スマート・シティとレジリエンス、ウェルビーイングと地域社会のレジリエンスなどをテーマとして基調講演が行われました。低所得国での水と衛生（WASH）の向上、地域社会のデジタルトランスフォーメーション（DX）、防災士からみた地域レジリエンス、能登半島地震に対する人と人のつながりを活かした復興支援などが提示されました。その後、パネルディスカッションが開催され、兵庫県立大学の増野園恵教授、江川教授を共同座長として議論がなされました。看護師として保健・医療面からどのように学際的に貢献できるか、人と地域のレジリエンスについて必要な考え方はなにか、若い研究者・実務者を育成するためにどのような工夫が可能か、などが活発に議論されました。



パネリストとともに

文責：江川新一（災害レジリエンス共創センター、災害医療国際協力学分野）